



元気いっぱい やる気いっぱい 笑顔いっぱい

せのうえ

瀬上小学校だより

令和6年6月24日(月)
第6号(地域回覧版)
文責:校長 高橋哲也

“あいさつ”で“笑顔”に ～あいさつ運動でのうれしい姿～



6月14日(金)、北信地域学校協働事業の一環として、今年度も登校時間に合わせた“あいさつ運動”がスタートしました。

交通安全母の会の皆様、学習センターや地域の皆様、北信中学校の先輩方、そして、今年度は小学校の児童会からも代表の子どもたちが参加することになりました。

この日の朝はこの上ない晴天、登校する子どもたちにたくさんの方々が笑顔で「おはよう」の声をかけてくださいます。

まさに「「おはよう」のシャワー”です。

すると、「おはよう」を返す子どもたちの表情も自然と笑顔に！

「おはよう」のシャワーを浴びて、うれしそうに「おはよう」を返す子どもたち。

「あいさつ運動ってすてきななあ。」「あいさつの力ってすごいなあ。」と、あらためて感じました。

あいさつを交わすことで、あたたかい“心の交流”が生まれているように感じました。

今後も月1回ほどのペースで予定されている地域のあいさつ運動、ぜひ“校内あいさつ運動”も立ち上げて“あいさつを交わすよろこび”を日常的に感じさせたいと思いました。

瀬上小の目標は“あいさつ日本一”です。

ある日、校舎内を歩いていたら、元気に「こんにちは！」とあいさつした後に、「あいさつ世界一！」と言って去っていく男の子に会いました。

私はうれしくてうれしくて、いつまでもその子の後ろ姿を見送っていました。

“思い”は伝わる “環境”が人を育てる

右の写真をご覧ください。

きちんとかかとをそろえて入れられたたくさんの靴。

ある日の登校直後の中央昇降口の様子です。

一人一人の子どもたちが自分の靴をきちんと入れていることが、とてもうれしいです。

当たり前のことのようですが、その“当たり前”が今まではできていませんでした。

では、なぜ、できるようになったのでしょうか？

今年度に入ってから、ある職員が子どもたちの登校後に、毎日、昇降口の清掃をしていました。

砂をはき、靴をそろえ、ていねいに清掃していました。

授業中のことですから、多くの子どもたちはその様子を見ていません。

ある日、いつものようにきれいな昇降口を見て、私は、いつも清掃している職員に「ありがとうございます。今日も下足箱がきれいですね。」とお礼を伝えました。

すると、その職員は「今日はやってませんよ。」と言うのです。

ということは…。

子どもたちが自分できれいに靴を入れたことがわかり、とてもうれしくなりました。

それからというもの、3つある昇降口は、どこもきれいに靴が並んでいます。

“思い”は伝わる。“環境”が人を育てる。

このことを実感しました。

毎朝、下足箱の様子を目にするたびに、子どもたちの“心”の成長を感じ、とてもうれしい気持ちになっています。

